

令和5年度 事業報告書



社会福祉法人 信愛会

- 法人本部 信愛会
- 特別養護老人ホーム 篠栗荘
- (特養併設) ショートステイ事業
- (特養併設) 篠栗荘ケアプランセンター
- 篠栗荘デイサービスセンター

令和5年度 信愛会本部 事業報告書

① 理事・評議員会等の開催内容

令和 5年 6月 ①法人監査(監事報告及び顧問公認会計士所見)

②理事・評議員会:決算事業報告・諸規程整備・理事監事選任

令和 6年 3月 ①理事・評議員会:補正予算・次年度予算・事業計画・諸規程整備

② 主な活動報告

上半期 ※ 基本的な感染予防継続・面会は予約制・会議研修行事等の企画は緩和

※ 新人オリエンテーションおよび既存職員への適時方針説明

※ 認知症介護基礎研修受講促進(医療福祉系資格未保有職員対象)

※ 特養入所ご家族説明会(現況報告・食費値上等)

※ マイナ保険証に関する取材(西日本新聞・テレビ西日本)

※ 決算報告・事業報告・監事監査・顧問公認会計士所見(法人本部)

※ 法人資産・理事長変更登記申請(福岡法務局)

※ 公益法人等収支計算書類提出(香椎税務署)

※ 社会福祉法人現況報告データ公表(福岡県庁)

※ 介護サービス公表システム情報更新(福岡県庁)

※ 介護サービス事業所調査票提出(厚生労働省)

※ WAM返済条件変更継続申請(福祉医療機構へ適時報告)

※ 信愛会ホームページ情報公開更新(経営協公開システム等も同時更新)

※ 法人役員賠償責任保険更新(FFGほけん・損保ジャパン)

施設従事者相互保険更新(職員互助会・社会福祉振興試験センター)

ソウェルクラブへの入退・記念品等各種申請(職員互助会・福利厚生センター)

退職共済職員名簿提出(福祉医療機構)

介護職等処遇改善関連計画報告提出(福岡県庁及び広域連合等)

軽自動車免税申請(篠栗町役場)

車両一括フリート保険更新(篠栗モーター・損保ジャパン)

全職員健康診断(三野原病院)

配置医師等報告電子申請(福岡県庁)

給食施設定期検査(粕屋保健所)

施設建物設備定期点検報告(委託業者より所轄団体へ報告)

下半期 ※ 福祉功労者表彰(県福祉大会にて安福デイセンター長受賞)

※ 物価高騰支援金:入所系・通所系の申請(福岡県庁)

※ 事業継続BCP規程更新・防犯マニュアル更新(全職員へ配布)

※ 虐待ハラスメント防止資料(全職員へ配布)

※ ユニ・チャーム排泄ケア再連携・講習企画(特養排泄委員/主任相談員/事務長)

※ 赤い羽根共同募金/歳末募金(職員互助会から篠栗町社協へ)

※ インフルエンザ予防接種(利用者:篠栗病院 / 職員:やまのクリニック)

※ 給食委託業者:昭和イーティングとのヒアリング(施設管理栄養士と双方管理職)

デイセンター:オアシス篠栗の行政財産使用許可更新(篠栗町役場)

法人一括財産包括火災保険更新(福祉共済会・あいおい損保)

施設賠償保険更新(E保険プラン・あいおい損保)

福岡県「子育て応援宣言企業」「エコ事業所」登録継続(認定証掲示)

福岡県「飲酒運転撲滅宣言企業」登録継続(ポスター等掲示)

③ 福祉医療機構分の借入金償還について (返済条件変更継続申請中:介護事業利益率低下につき)

平成22年時:篠栗荘移転改築時分 (元金 本来・年1863万円を据置) 利息 3,525,212円

④ 情報公開・指定更新・地域貢献・人材育成への対応

- i パンフレットや各種広告に加え、ホームページでの情報公開、理念方針・個人情報保護・苦情解決体制・定款・財務諸表・事業計画報告・監査報告・役員一覧・組織図・サービス説明書等のデータ適時更新
- ii 介護保険事業所(特養篠栗荘・併設ショートステイ・デイサービスセンター・ケアプランセンター)は、「介護サービス情報公表制度」に基づく公表データ更新(平成18年度より毎年)
- iii 介護保険事業所(特養篠栗荘・併設ショートステイ・デイサービスセンター・ケアプランセンター)の指定更新(令和2年より6年間有効)

※ 地域社会貢献活動について



【地域の社会福祉法人と連携:篠栗町社協の福祉講座に主任相談員や管理栄養士が出向、県社協ふくおかライフレスキュー粕屋連絡会に参加、旧施設をリユース品倉庫とし無償提供】共同募金/歳末募金(職員互助会からと自販機売上一部)・非常食買替時にフードバンクへ・飲酒運転撲滅宣言・エコ事業所登録等

※ 福祉人材育成について



【信頼と共感のもてる職場づくりの方針を掲げ、新入職員へ初期教育・既存職へ待遇改善・規定明示・WEB研修等への参加促進や資料配布・資格取得支援】小中学生へ福祉教育(感染対策にて限定)・教職課程大学生の介護体験(休止)・専門学生の実習受入(限定)・子育て応援宣言登録・応急手当普及員配置・喀痰吸引研修・専門職研修・協力歯科の口腔ケア指導・消防や防災業者による定期点検訓練等



☆信愛会職員能力向上プロジェクト☆【資格取得支援】

平成27年度 実績	社会福祉士 1名・介護福祉士 2名・ケアマネ 1名 合格
平成28年度 実績	社会福祉士 1名・介護福祉士 1名 合格
平成29年度 実績	介護福祉士 1名 合格
平成30年度 実績	介護福祉士 1名 合格
令和 2年度 実績	社会福祉士 1名・介護福祉士 1名 合格
令和 3年度 実績	介護福祉士 2名 合格

※ 資格取得者には、福利厚生センター(ソウェルクラブ)からの記念品進呈と、給与規定による手当増額等があります。(実績者の3年未満の退職累計6名)

令和5年度 研修出張等の記録（本部・特養区分）

職種	研修名	研修日	研修場所	主催者	
施設長	北部施設長会	4月25日	八仙閣	北部ブロック	
	老老協総会	6月19日	福岡市	県老老協	
	安全管理者講習	7月12日	粕屋町	県公安委員会	
	関川ゼミ	7月29日	福岡市	関川ゼミ	
	北部施設長会	8月2日	ZOOM	北部ブロック	
	地域包括ケア推進協議会	8月18日	篠栗町役場	篠栗町	
	カトリック九州支部職員研修	11月16日	長崎市	日本カトリック九州支部	
	地区老老協役員会	1月17日	ZOOM	地区老老協	
	北部ブロック施設長会	2月28日	ZOOM	北部ブロック	
	地区老老協役員会	3月4日	博多区	地区老老協	
経営協研修	3月12日	博多区	県経営協		
事務長	顧問会計士決算前チェック	6月1日	篠栗荘	信愛会	
	信愛会 理事会	6月28日	〃	〃	
	福岡法務局・変更登記	6/29・7/25	福岡市	福岡法務局	
	公正採用人権研修	11月7日	〃	ハローワーク・労働局	
	特養ホーム等入所者の診療の取り扱い講習	11月21日	ZOOM	県保健指導課	
	口腔ケア定着推進研修会	2月29日	ZOOM	県歯科医師会	
	労働保険年度更新事務講習会	5月16日	飯塚市	県社会保険協会	
労務	算定基礎事務説明会	6月8日	〃	〃	
	労働条件に関する調査	7月25日	東区	福岡県労働基準監督署	
	メンタルヘルス対策セミナー	8月4日	飯塚市	福岡労働局	
	育児休業に関する事務講習会	9月5日	〃	県社会保険協会	
	パート・有期雇用報告聴取	10月24日	福岡市	福岡労働局	
	年末調整事務講習会	11月15日	飯塚市	県社会保険協会	
	職域型年金委員研修会	2月26日	オンライン	年金事務所	
	介護経営セミナー	7月25日	ZOOM	県社協	
	生産性向上の取組みに関するビギナーセミナー	8月10日	〃	厚労省	
	都道府県経営協セミナー	8月25日	博多区	県経営協	
介保主任	介護人材の定着とメンタルヘルス	12月6日	ズーム	介護ロボット開発促進センター	
	人材確保・定着セミナー	1月12日	福岡市	県経営協	
	介護現場における生産性向上推進フォーラム	2月27日	web	厚労省	
	介護報酬改定解説	3月12日	オンライン	全国介護事業者連盟	
	北部相談員会	4月12日	顕慈園	北部ブロック	
	篠栗町介護サービス事業所連絡会	4/27・6/29	篠栗町役場	篠栗町 高齢福祉課	
	ノーリフティングケア研修	5月11日	筑後市	県ノーリフティング事業筑後地域連絡協議会	
主任相談員	夏休み福祉体験教室	7月27日	オアシス篠栗	篠栗町社協	
	ライフレスキュー	8/18・11/16	福岡市・宇美町	ライフレスキュー糟屋地区	
	福祉サービス苦情解決従事者研修	2月2日	web	県社協	
	認知症サポーター養成講座	2月21日	オアシス篠栗	篠栗町社協	
	防犯研修	3月20日	オンライン	福岡地区老老協北部ブロック	
	北部相談員会	4月12日	顕慈園	北部ブロック	
	篠栗町介護サービス事業所連絡会	4月27日	篠栗町役場	篠栗町 高齢福祉課	
生活相談員	生活相談員研修	12月8日	博多区	県老老協	
	福祉サービス苦情解決従事者研修	2月2日	web	県社協	
	篠栗町介護サービス事業者等連絡会	2月21日	篠栗町役場	福祉課高齢者支援係	
	地域ケア会議専門職研修	6月15日	粕屋町	粕屋町	
	篠栗町地域包括ケア会議	7月21日	篠栗町役場	篠栗町 福祉課	
	粕屋町地域ケア会議	8/17・1/15	粕屋町役場	粕屋町	
	在宅医療支援者スキルアップ研修	9月7日	web	粕屋保健所	
管理栄養士	篠栗町地域包括ケア会議	11月17日	篠栗町	篠栗町 福祉課	
	地域ケア会議専門職向け研修	12月10日	県庁	県高齢者地域ケア推進課	
	認知症介護講座(認知症カフェ)	12月26日	オアシス篠栗	篠栗町福祉課	
	糟屋地区高齢者栄養ケアサポート連絡会	1月18日	粕屋町	粕屋保健福祉事務所	
	篠栗町地域包括個別ケア会議	1月19日	篠栗町役場	福祉課	
	栄養士研修	2月22日	クローバー	県老老協	
	臨地実習に関する連絡協議会	3月6日	中村大学	栄養士実習関連協議会	
	粕屋ケア会助言講習会	3月13日	粕屋町	粕屋町	
	粕屋ケア会議	3月18日	粕屋町	粕屋町	
	看護職	喀痰吸引内部研修	4/10・6/22・8/10	篠栗荘	看護師・介護職
		感染対策研修	3月9日	九大病院	県介護保険課
	介護職	喀痰吸引内部研修	4月10日	篠栗荘	看護師・介護職
		認知症介護基礎研修(2名参加)	5月30日	春日市	県社協
食中毒予防・ガウンテクニック研修		6月22日	篠栗荘	看護師・介護職	
普通救命講習会		7月13日	中部消防署	粕屋南部地域防災協会	
リスクマネジメント研修		8月10日	篠栗荘	事故防止委員会・主任相談員	
認知症フレンドリー講座		8月19日	春日市	クローバープラザ	
虐待防止研修		9月10日	中間市	〃	
人権擁護研修		10月5日	篠栗荘	虐待拘束廃止委員会・主任相談員	
ユニ・チャーム講習会(内部研修)		12月6日	篠栗荘	ユニ・チャーム	
メンタルヘルスについて考える		2月16日	博多区	福岡地区老老協	
人権擁護研修		2月21日	篠栗荘	虐待拘束廃止委員会	
口腔ケア定着推進研修会		2月29日	ZOOM	県歯科医師会	
主任ケアマネ		篠栗町介護サービス事業所連絡会	4/27・6/29	篠栗町役場	篠栗町 高齢福祉課
	居宅・集団指導	8月24日	パピヨン	福岡市	
	主任ケアマネ更新研修	5/12を初め8日間	ZOOM	県高齢者地域包括ケア	
	居宅BCP研修	11/21・12/15	〃	粕屋広域	
	居宅BCP研修	1/19・2/16・3/15	〃	粕屋広域	
	篠栗町介護サービス事業者等連絡会	2月21日	篠栗町役場	福祉課高齢者支援係	

《 法人事務部門報告 》

“ 信頼と共感の持てる職場づくりに取り組みつつ、適正な情報公開・財務規律に努めました”

【信頼と共感の持てる職場づくり】 これまで数年間、人材育成や待遇改善、業務省力化を図ってきましたが、
新型コロナ禍に、養護施設廃止や人手不足等の厳しい状況を経験しました。
現在は、既存事業に集中して、「小さくともキラリ輝く運営を」目指しています。
人手不足も徐々に改善方向にあり、業務改善策を試行錯誤しています。

【情報公開への取り組み】 社会福祉法人に求められる情報公開の全項目をホームページに掲載適時更新。

【適正な会計処理について】 顧問公認会計士に相談・報告を行い、適正な財務管理に努めました。

予算計画や決算報告等において、要点や方向性を分かりやすく解説しました。

【監査・調査等への対応】 重点項目を継続的にチェックし、記録書類の確実な保管に努めました。

特に財務や法人の状況調査等においては、実態をご理解頂ける様な資料作成や、
情報収集・分析を行い、現状アピールに努めました。

【コスト管理等の取り組み】 費用対効果を考慮して経費を抑え、物価高騰や優先度の高い支出に備えました。

【防災救急対策について】 緊急連絡網や自衛組織表など適時更新し、訓練点検も定期的に実施しました。

自然災害等に関しても、資料揭示。消防立入検査も支障なし。

事業継続BCP規程や防犯マニュアルも更新して全職員に配布。

(適時各種シミュレーション実施)

社会福祉法人 **信愛会** は、

カトリックの隣人愛の人間観に基づき、全職員が人間尊重を基本理念とし、

福祉人として老人福祉事業に取り組みます。

ふれ愛 いき愛 いかし愛 共に喜び 共に生きよう

をモットーとして、安心してご利用頂けるサービスを提供します。

令和5年度 介護保険事業報告 (特養施設・ショートステイ・ケアプラン・デイサービス)

【概要①】 特別養護老人ホーム 篠栗荘 (介護老人福祉施設)定員52名

※2名はショート空床特例入所

年間延利用者数	17328人
月平均利用者数	47.3人
月平均延利用者数	1444人
月平均稼働率	91.05%

保険者	篠栗町が約74%
-----	----------

年間入所者	11名
年間退所者	10名

平均要介護度	3.9
平均年齢	87.5歳

・利用者で負担軽減を受けている方・・・65%

○ 平均要介護度は前年度3.9と変わらず。

新規入所者内訳が(特例入所)要介護2:1名、要介護3:3名、要介護4:5名、要介護5:2名で昨年度から全体的に新入所者の介護度が低かった事が原因である。

入所待機者は要介護3以上の方に限定すると40名程度で、前年度より減少傾向にある。

入所待機者となっても、入所が不可能な状態であったり、他施設に入所したりという状態で、実際の入所待機者は約半数という状態であり、待機者数の減少が続いている状況は糟屋郡内の特別養護老人ホームはどこも同じである。

○ 稼働率は91.02%。過去、令和4年度88.3%と比較して上昇。

7月に新型コロナウイルスによるクラスター発生もあり入院者の増加、人手不足による新規入所者の見合わせ等を実施した期間もあったが、相談員を中心とした他部門間との連携を密に行った事や退所者数が例年に比べ少なかった事が稼働率上昇に繋がったと思われる。

しかし、過去10年の平均稼働率(92.2%)と比べるとまだまだ改善の余地はある為、更なる工夫を行う必要あり。

○ 入所の方は篠栗町の方が74%で相変わらず多い。新規入所申し込者も篠栗町の方が多い。

嘱託医である篠栗病院や地域の病院・老人保健施設・小規模多機能からの紹介が多いことが一因と考えられる。今後も良い関係性を継続させる事が待機者の減少防止に繋がるとと思われる。

今後も待機者増は望めない為、更に魅力ある施設作りを模索していかなければならない。

○ 負担軽減を受けている方は65%(生活保護受給者5名)

成年後見人制度を利用中の方は4名。成年後見制度の利用が増加している傾向にある。

【概要②】 併設ショートステイ事業(短期入所生活介護)定員8名

年間延利用者数	1688人
月平均実利用者数	4.6人
月平均延利用者数	143人
月平均稼働率	57.65%
1日平均利用者数	4.6人

要支援・要介護状況

要支援1	0.50%
要支援2	0.2%
要介護1	24.3%
要介護2	38.6%
要介護3	17.9%
要介護4	12.9%
要介護5	5.7%

稼働率は57.65%。令和4年度50.24%と比較して上昇。

しかし、過去10年の平均稼働率(75.6%)と比べると低く、入所稼働率と同様に人手不足による新規入所者の見合わせ等を実施した事や、レギュラーで利用していた方が、死亡、入院、他施設への入所等で利用中止となり、代わりの方がすぐに見つからなかった事(周辺に施設が多く出来た為)が稼働率伸び悩みの原因である。

今後もしばらくは新型コロナウイルスの影響は続くと思われるため、レギュラーの方の確保をしていかなければならない。又、感染症の予防にも力を入れて行かなければならない。

※更に魅力ある施設作りをして、アピールしていかなければならない。

【各部門要旨】 介護・看護・栄養部門報告

※ 看護・介護・栄養・相談の3部門が一体となり、より良い統一したサービスの提供に努めた。

- | | | |
|--|---|--|
| ・基本的介護の充実
・感染症・褥瘡予防
・事故防止
・身体拘束廃止
・高齢者虐待防止 | } | ・各種委員会活動の充実
・ケアプラン、栄養ケアマネジメントの充実
・より良い接遇を意識
・家族との連携強化 |
|--|---|--|

※ ケアプランに沿ったチームケアを推進した。

- ・職員一人一人が利用者に対して真剣に向き合いどうするべきかを考え行動に移す。
それに対して評価をし、継続するか中止するか利用者にとってどうなのかをチームで実施出来た。

※ 誕生会・喫茶・デザートバイキング等の行事が充実し、定着している。

- ただ、おやつを食べて頂くというだけの行事ではなく、利用者の皆様に楽しんで頂くという意識になっており、それが更に行事の充実につながっている。

※ 施設機能を有効に活用できる様に、業務の見直しを図っている。

- ・周知徹底が困難な事もあり、現在は、業務改善提案書式を作成し、立案・チェックする事で共通認識を高めるように工夫している。

※ 接遇面の強化を図った。

- ・利用者の雰囲気は職員の接遇の鏡という事を意識した接遇を心掛け、心情に可能な限り寄り添える様に普段からコミュニケーションを大切にした。

※ 会議を充実させ職員間の連携促進を図った

- ・職員全体会議を偶数月に実施し、各委員会からの活動報告と必要事項の説明・伝達+研修概要の報告+施設全体の問題点、改善点を話し合う様にした。職員全体会議は伝達の場合ではなく、話し合いの場として、全員が意見を言い合える様な雰囲気作りを行った。
- ・部門代表者(リーダー)会議は施設長以下、各部門の代表者が参加し、施設全体の問題点、改善点、方向性を話し合い、各種会議・委員会等へ説明・伝達を行った。
- ・フロア会議を奇数月に実施し、フロア内における連絡事項の確認、問題点等について話し合う様にした。しかし、フロア別の意思疎通が困難な事もあり、次年度に向けて異動もある為、会議内容充実を図る対策を検討している。

※ 新型コロナウイルス感染症への対応の為に、従来の感染症対策を徹底強化した。

- ・令和5年7月にクラスターが発生。入所者9名・職員8名に感染。
昨年のクラスター発生経験を活かし、スタンダードプリコーション(感染症に対する標準予防策)を意識し、熱発者が出た際はすぐに感染対策を行う事が出来ている。
- ・予防接種(新型コロナウイルスワクチン、インフルエンザ)の徹底。
- ・感染症対応に必要な知識を得る為、施設内研修の強化(ガウンテクニック実習等)を行った。
- ・「疑わしい症状には徹底的に対応する」を実践し、ガウンテクニックによる消毒や通院等により医療機関と連携し、一時的隔離等による拡散防止を図った。
- ・家族への注意喚起を適宜報告し、感染者発生に応じて、面会の制限を実施。
面会は玄関ロビーに限定し、予約制としている。
- ・ボランティア、実習等への協力要請。
(玄関先での手指洗浄・消毒の徹底、体温測定と有事での出入り制限の徹底)
- ・職員は毎日出勤時に検温を行い、37.0℃以上の熱がある場合には、状況に応じ、通院・自宅待機等の対応を行った。就業時にはマスク着用と手指洗浄・消毒の徹底を継続した。
- ・福岡県から無償提供された抗原検査をスタッフ全員が定期的実施する事で水際対策を徹底した。

【各委員会要旨】 各種委員会の活動報告

口腔衛生管理委員会

- ①食事摂取量表の活用と支援経過記録への転記を徹底し、個々の把握に努め、情報共有を図る。
・各階の情報共有が出来なかった為、多職種参加の栄養会議、栄養ケア、ケースカンファレンスを利用して情報共有を行い、より良いサービスの提供に繋げていきたい。
- ②口腔機能維持管理への取組みを継続して行く
・口腔ケアについては協力歯科医院の歯科衛生士より指導を受け、適正に実施している。
今後は各階の担当利用者だけを把握するのではなく、職員全体で把握出来る様にしていく。
- ③各部署との報告・連絡・相談を徹底する
・各部門間の連携が取れるように努め、意思疎通が出来ていた。
- ④口腔ケア物品の管理の徹底を行う
・各利用者の物品は衛生面も含め、管理出来ていた。今後も管理体制を確認+把握に努める。

入浴・清潔ケア向上委員会

- ①入浴機器や物品の管理の徹底、速やかな報告を心掛ける
・年度を通して物品の不調や故障が多い年であったが、破損報告や全体への周知など速やかに行い、状況に応じた変更対応も実施することが出来た。
- ②入浴スケジュール表は適宜変更・更新を行い、一か月毎にまとめ記録する
・1月から入浴スケジュール変更を行う為、会議を行い意見を求めている。
意見を集約した内容で入浴スケジュールを組んではいたが、大幅な変更であった為、状況把握も難しく意見のすれ違いもみられた。今後の修正が必要。
- ③入浴スケジュール・入浴形態の変更を行う際は委員会全体で検討を行い報告と周知を徹底する
・新入所者に疥癬に罹患されている方がいたが感染対策を行い、拡大を防ぐ事が出来た。
また、委員会記録にまとめる事で今後も再発予防を行う事が出来る。

排泄ケア向上委員会

- ①看護部門との連携を強化する
・臀部や陰部など皮膚異常がみられた際は直ぐに確認してもらえる様、看護と連携を行った。
入浴後の介護(軟膏塗布、衣類着用など)に看護が補助として入ってもらえる事が出来た為、処置もスムーズに行う事が出来ていた。
また、個別の処置内容をその都度、介護に伝える事が出来ており、連携を取る事が出来た。
- ②物品の管理、検討を行う
・今年度途中より清拭用品の変更を行っている。今後もオムツ類の用品に関しても利用者に合ったものを提供出来る様に職員に聞き取りを行いながら検討していく。
- ③排泄ケアに対して意識意欲を高める
・尿路感染症の利用者が増加してきた事もあり、原因追及の為、オムツメーカーによる講習会を実施。事前に排泄ケアについてのアンケートを取った事で現状の課題も浮き彫りとなり、改善点等が分かってきた様に思われる。
講習会には多数の職員が参加。排泄ケアに関する考え方も今までとは違うものも多かった為、意識を変える良い機会になった。今後も定期的な講習会や職員の声を聞く機会を作っていく。

感染症・褥瘡防止委員会

- ①感染症防止について
・7月にクラスター発生した際には、事業継続BCP規程に沿って感染対策を実施。
多職種と連携出来た事で、感染ゾーン指定・入所者隔離までスムーズに実施している。
1階と2階の職員往来禁止・入浴中止・食事1日2食提供に変更等も他部門、他委員会と連携し、協力フォロー体制を整える事が出来た。
・4S(整理・整頓・清掃・清潔)に基づき、居室管理・環境整備・リネン類管理は徹底出来ている。
・フロア内換気・マスク着用等は今後も継続して行い、感染者を出さない努力をしていく。
- ②褥瘡防止について
・毎月皮膚トラブルは数名あり。早期発見・速やかな処置により大きな皮膚トラブルにならずに済んでいる方もいるが、身体状態等により皮膚状態が悪化する方も少数ながら存在している。
食事や栄養面、皮膚清潔等において他部門、他委員会と連携する事で重症化することなく経過している。
・褥瘡防止において他部門との連携をしっかりと取る事で協力体制が確立。

事故防止委員会

- ・事故報告書やヒヤリハット報告書の集計と内容の検討を行い、委員会が書面での報告を行い、職員に注意喚起を行った。
- ・センサーマットの適切な活用の為に物品管理の徹底と使用記録を継続し、使用の可否について検討を継続している。
- ・相談員が中心となり、家族や代理人への説明を適宜行ったり、トラブル発生時の対応を適切に迅速に行う事で、事故を事件にしないように努めた。
- ・事故防止委員会が中心となり、緊急時や事故発生時の対応例をわかりやすく説明する研修を計画・実施した。
- ・事故報告書とは別に皮膚剥離や皮下出血の発生時のみに記入を行う皮膚剥離・皮下出血確認書を新たに作成したが、周知出来ておらず報告漏れが何件かみられている。今後も報告書の重要性を改めて伝える事で周知徹底を進めていく。
- ・ヒヤリハット報告が前年よりも件数が減少。事故を防ぐ為の気づきに繋がる為、重要である事を委員会として周知していきたい。

※職員の意識の差があり、同様の事故を繰り返す事もある為、統一した対応の定着は、今後も継続課題である。

虐待拘束防止委員会

①身体拘束について

- ・身体拘束の適正化のための指針に基づき、原則として身体拘束は行いませんが、生命・身体の保護の目的で、現在2名の方が身体拘束の対象となっている。
利用者の心身の状態を見ながら条件を満たす事が出来れば直ちに拘束解除を行っていく。
- ・今後も緊急やむを得ない場合は指針に沿った手順(虐待拘束廃止委員会による検討、ご家族等への説明・同意、拘束の有効性の再検討、経過記録の保管)を徹底し拘束に踏み切る。

②物品の管理、検討について

- ・身体拘束時に使用する物品やセンサーマットの使用状況＋使用時の記録に関しては記入漏れも無く実施出来ている。

③虐待防止について

- ・今年度は2回の研修会を実施。虐待や身体拘束に関して知識を高める事が出来ている。また、研修会後にアンケート(虐待の芽チェックリスト)を配布し虐待予防への意識を高める事が出来ている。
- ・虐待防止に向けて月間テーマを設け、期限終了前にアンケートを配布。テーマ目標についてどれだけ出来たかを振り替り、次回テーマに向けて意識を高める事が出来た。職員全員テーマの目標達成が出来る様に取り組んでいきたい。

※虐待や身体拘束廃止に関しては、介護保険報酬改定で更に厳しくなっていく為、講習会や職員の声を聞く機会を定期的に作り、虐待や身体拘束に関する知識を充実させる必要がある。

安全対策委員会

- ・喀痰吸引を行う吸引機の設置場所が職員全体に周知出来ておらず、使用時に探さなくてはならない事もあった。改善点として吸引機に個体番号を付け、保管場所を記した表を作成。それにより所在が明確になり、必要時に誰でも直ぐに準備出来る様になっている。
- ・喀痰吸引を行った際の吸引実施記録ファイルについて記録抜けがあった為、周知徹底させる必要がある。

行事・レクリエーション

実施月	行事内容
4月	誕生会・花祭り
5月	誕生会
6月	誕生会・手作り喫茶(フレンチトースト)
7月	七夕・誕生会・スイカ割り(企画・提供)
8月	盆供養・誕生会
9月	敬老会式典・誕生会・彼岸法要
10月	誕生会・焼き芋会(企画・提供)
11月	秋祭り(企画・提供)・誕生会・焼き芋会

12月	クリスマス・誕生会
1月	新年祝賀会・誕生会
2月	節分豆まき会・誕生会
3月	桜花見・ひな祭り・誕生会・彼岸法要

- ・昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、「秋祭り」「新年の集い」という集合行事を行うに留まっていたが、今年度は例年通りの行事や外出を実施する事が出来た。
今後も状況を見ながら適宜、行事や外出を実施していきたい。
- ・毎日の習慣として午前11:00から全館にラジオ体操を流し、できる利用者には体操をして頂く様にして、少しでも楽しみや生活にメリハリを持たせる様にしている。

研修実施

実施月	担当者	研修内容
4月	事務長	新年度信愛会方針及び事業計画説明 介護保険制度概要説明
	安全対策委員会	特定行為実地研修
6月	防火管理者	・通報及び避難訓練 ・防災についての説明と消火器訓練 ・避難器具の取扱説明と実地訓練
	感染症・褥瘡防止委員会	食中毒予防・ガウンテクニック実地研修
	安全対策委員会	特定行為実地研修
8月	安全対策委員会	特定行為実地研修
10月	虐待拘束廃止委員会＋生活相談員	人権擁護研修(身体拘束廃止・高齢者虐待防止)
	安全対策委員会	特定行為実地研修
11月	防火管理者	・通報及び避難訓練 ・避難器具の取扱説明と実地訓練
12月	排泄ケア向上委員会	・排泄ケアの基礎について講義
	ユニ・チャームインストラクター	・実際の排泄製品の特長と性能、有効利用についての説明と実技
1月	感染症・褥瘡防止委員会	・感染症(コロナ・インフルエンザ・ノロウイルス)対策研修 ・ガウンテクニック実地研修
2月	虐待拘束廃止委員会＋生活相談員	人権擁護研修(身体拘束廃止・高齢者虐待防止)
	安全対策委員会	特定行為実地研修
3月	事故防止委員会 生活相談員(応急手当普及員)	リスクマネジメント研修(緊急時の対応)
	防火管理者	・通報及び避難訓練 ・避難器具の取扱説明と実地訓練

- ※上記以外でも外部研修報告や委員会・部会からの報告や提案で介護方法の検討や統一、虐待防止、身体拘束廃止、認知症についての検討等を実施。
 ※平成26年度より人財育成強化を図り、新入職員の教育強化を実施・継続している。
 (中途採用者にも適用)

業務分担・省力化対策

- ・特別支援学校からの卒業生1名が非常勤で介助員(清掃業務)として順調に勤続している。
- ・他にも人手不足時に介護職の負担軽減を図る為、短時間パートや高齢スタッフに介助(清掃・洗濯等)をお願いし、業務分担を行っている。また、月1回程のふれあい会ボランティア(シーツ交換等)の受入れも再開している。

利用者の食事状況報告 令和6年3月31日現在

○ 栄養ケアマネジメント状況

低栄養リスクレベルの判定状況 高リスク 0名・中リスク 4名・低リスク 47名
 栄養ケアマネジメント実施状況 高リスク月2回・中リスク月1回・低リスク 3ヶ月に1回
 経口摂取以外の方の状況 胃ろう造設者 3名

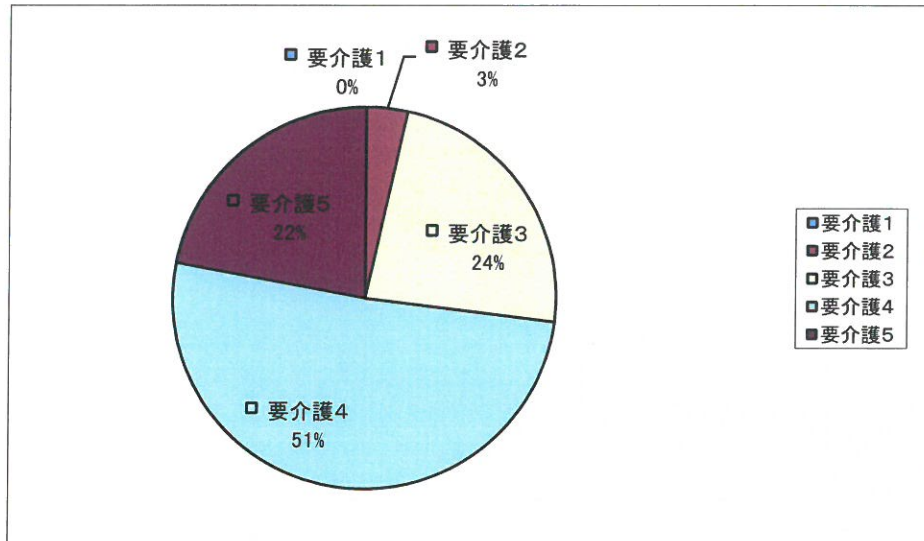
○ 行事食実施状況

実施月	昼食		おやつ	
4月	春の弁当	季節御膳	花祭り (和菓子とコーヒー)	お好み焼き
5月	端午の節句	季節御膳	ミニパフェ(いちご)	おやつの盛り合わせ
6月	お楽しみ献立	季節御膳	レモンケーキ	フレンチトースト作り
7月	七夕御膳	土用の丑	あんみつ	※スイカ割り大会中止 コロナウイルス感染症クラスター発生の為
8月	お楽しみ献立	季節御膳	ホットケーキ	おやつの盛り合わせ
9月	敬老のお祝い御膳		秋のお彼岸(おはぎ)	デザートバイキング
10月	秋のお弁当	季節御膳	焼き芋パーティー	蒸し饅頭
11月	秋祭り 屋台形式 (焼きそば、カレーライスなど)	季節御膳	プリンアラモード	鈴カステラ作り
12月	クリスマス料理	年越しそば	ブルーベリーマフィン	お菓子の盛り合わせ
1月	おせち 七草粥	季節御膳	鏡開き(ぜんざい)	ミニパフェ(チョコ)
2月	節分	季節御膳	生クリームどら焼き	チョコフォンデュ
3月	ひな祭り	季節御膳	春のお彼岸(ぼた餅)	デザートバイキング

・毎月1日：お赤飯

① 年間要介護度別利用人員

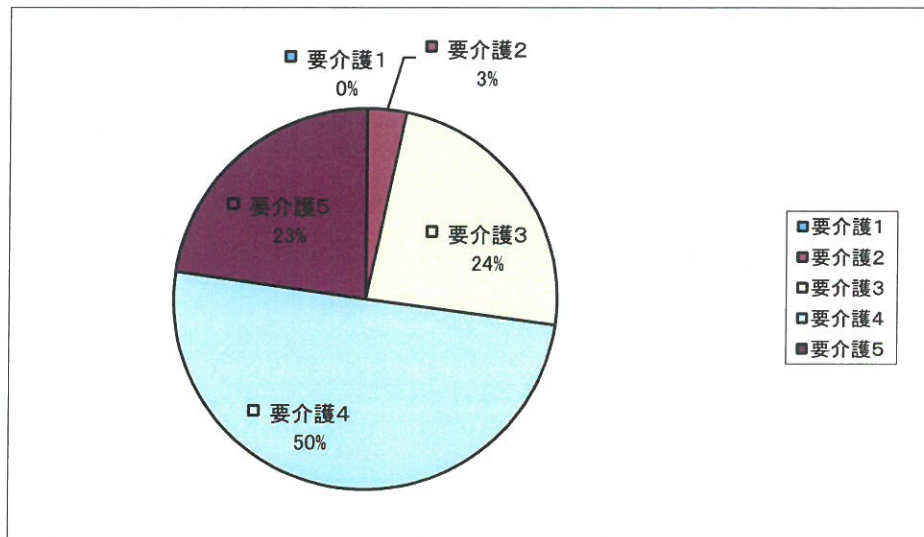
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
自費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人	0%
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人	0%
要介護2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	2	2	21人	3.5%
要介護3	13	12	11	11	11	11	11	13	13	12	12	13	143人	23.5%
要介護4	23	25	27	28	28	28	29	26	24	24	24	24	310人	51.0%
要介護5	11	9	10	11	11	12	11	11	12	12	12	12	134人	22.0%
合計	49	48	50	52	52	53	53	51	50	49	50	51	608人	100.0%
平均介護度	3.88	3.85	3.90	3.92	3.92	3.94	3.92	3.92	3.94	3.96	3.92	3.90	3.92	



② 月別利用日数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
自費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0日	0%
要介護1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0日	0%
要介護2	58	60	53	54	60	59	61	30	31	31	43	31	571日	3.3%
要介護3	388	370	300	330	339	305	299	335	361	368	346	396	4,137日	23.9%
要介護4	690	705	748	684	740	708	808	743	744	724	680	713	8,687日	50.1%
要介護5	280	272	288	270	341	360	341	330	372	369	369	341	3,933日	22.7%
合計	1416	1407	1389	1338	1480	1432	1509	1438	1508	1492	1438	1481	17,328日	100.0%
月日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366日	
平均	47.2人	45.4人	46.3人	43.2人	47.7人	47.7人	48.7人	47.9人	48.6人	48.1人	49.6人	47.8人	47.3人	

月平均 1,444.人 ベッド稼働率 91.05%



③ 新規入所状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1														0人
要介護2												1		1人
要介護3							1		1				1	3人
要介護4			1	1	1		1	1						5人
要介護5				1	1									2人
合計		0	1	2	2	0	2	1	1	0	0	1	1	11人

④ 退所状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1														0人
要介護2														0人
要介護3										1				1人
要介護4						1	1	3	1				1	7人
要介護5	2													2人
合計		2	0	0	0	1	1	3	1	1	0	0	1	10人

⑤ 入院状況 (延べ日数)

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
要介護1														0日	
要介護2												9	28	37日	
要介護3				37	17		24	41	53	32				204日	
要介護4	9	63	49	191	118	101	31	24			18	16	45	665日	
要介護5	22		8	31							3	10	14	88日	
本年度合計		31	63	94	239	118	125	72	77	32	21	35	87	994日	127.60%
前年度数値		60	68	95	101	98	129	52	40	41	29	57	9	779日	

入所者 (3月31日付)

	男	女	合計	割合
40-64				0%
65-69				0%
70-74	1	1	2	4%
75-79		6	6	12%
80-84	1	8	9	18%
85-89	1	8	9	18%
90-94	4	14	18	36%
95以上		6	6	12%
合計	7	43	50	100%

※全体平均年齢・・・87.5歳

※男性平均年齢・・・86.1歳

※女性平均年齢・・・87.7歳

要介護度 (3月31日付)

要介護度			
	男	女	合計
要介護度1	0	0	0
要介護度2	1	1	2
要介護度3	3	10	13
要介護度4	2	21	23
要介護度5	1	11	12
計	7	43	50

※平均要介護度:3.9

保険者内訳 (3月31日付)

保険者	人数	割合
篠栗町	37	74.0%
粕屋町	2	4.0%
福岡市	6	12.0%
須恵町	1	2.0%
宮若市	1	2.0%
久山町	1	2.0%
行橋市	1	2.0%
岡垣町	1	2.0%
合計	50	100%

所得段階等 (3月31日付)

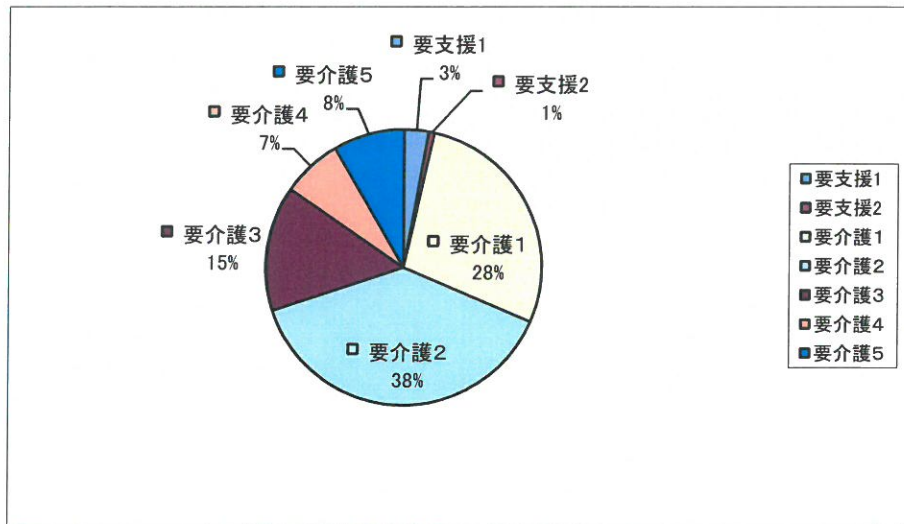
所得段階	人数	割合
生活保護	5	
1段階	5	(生活保護の方と同じ)
2段階	7	
3段階①	7	
3段階②	16	
4段階	14	
4段階(2割負担)	1	
4段階(3割負担)	0	

【短期入所(ショートステイ)】令和5年度

定員10名-2名分は施設特例入所:実質8名

① 月別利用人員

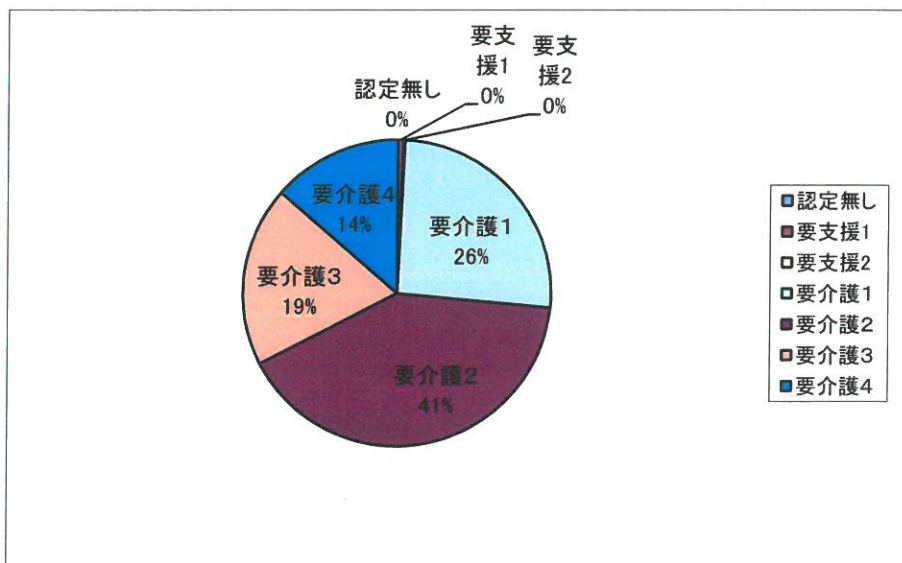
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
介護保険	要支援1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	4人	2.8%
	要支援2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1人	0.7%
	要介護1	2	3	3	3	4	3	3	2	2	3	6	40人	28.0%
	要介護2	4	4	4	5	5	6	6	4	4	5	5	55人	38.5%
	要介護3	1	2	2	1	3	3	2	2	2	1	1	21人	14.7%
	要介護4	2	1	1	1	2	2	1	0	0	0	0	10人	7.0%
	要介護5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12人	8.4%
	合計	10	11	12	11	16	15	13	10	10	10	14	11	143人
平均介護度	2.6	2.4	2.2	2.3	2.3	2.5	2.3	2.2	2.2	2.1	1.8	1.8	2.2	



② 月別利用日数

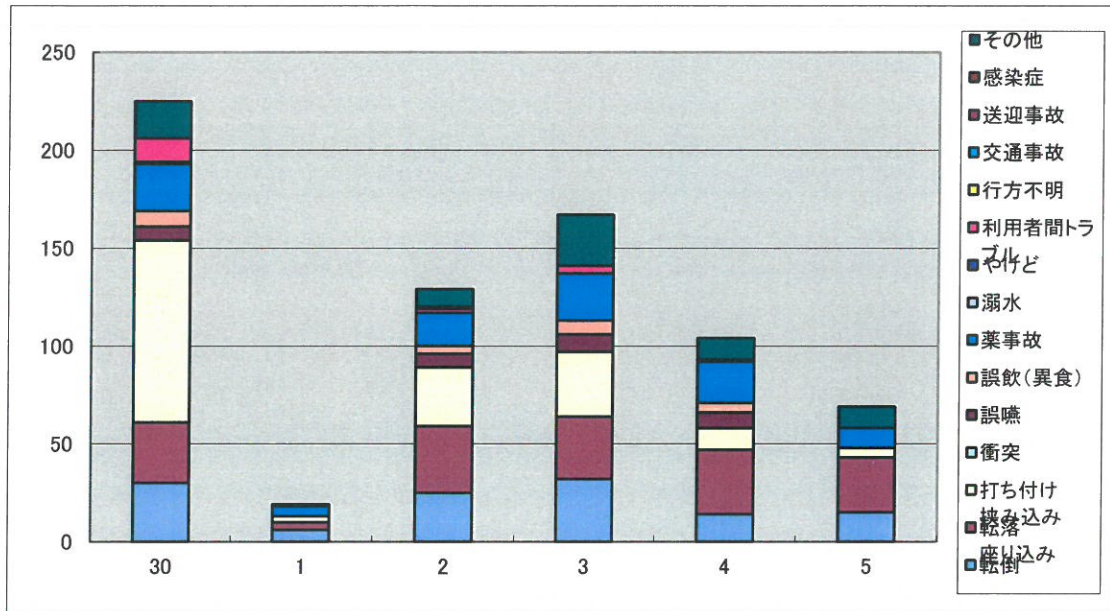
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合	
認定無し	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	日	0%	
介護保険	要支援1	0	0	0	0	2	0	0	2	3	0	2	9日	0.5%	
	要支援2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3日	0.2%	
	要介護1	12	13	21	25	32	25	30	28	32	43	61	88	410日	24.3%
	要介護2	24	51	60	43	47	66	97	60	50	41	43	69	651日	38.6%
	要介護3	30	33	32	31	37	33	33	16	14	15	14	14	302日	17.9%
	要介護4	33	31	30	31	44	36	12	0	0	0	0	0	217日	12.9%
	要介護5	10	8	9	3	8	9	7	8	9	9	6	10	96日	5.7%
	合計	109	136	155	133	170	169	179	114	108	108	126	181	1,688日	100.0%
月日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366日		
平均	3.6人	4.4人	5.2人	4.3人	5.5人	5.6人	5.8人	3.8人	3.5人	3.5人	4.3人	5.8人	4.6人		

月平均 140.67 稼働率 57.65%



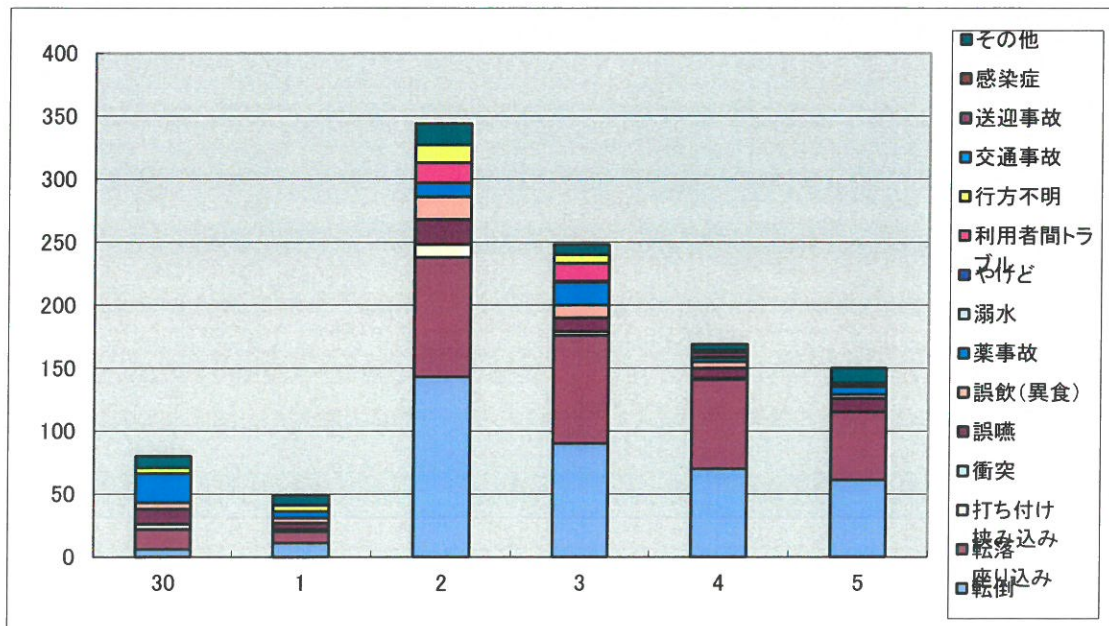
特養・短期入所事故報告書件数

年度	転倒	座転落込み	打ち付け挟み込み	衝突	誤嚥	誤飲(異食)	薬事故	溺水	やけど	利用者間トラブル	行方不明	交通事故	送迎事故	感染症	その他	合計
30	30	31	93	0	7	8	24	0	1	12	0	0	0	0	19	225
1	6	4	3	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	1	19
2	25	34	30	0	7	4	17	0	0	2	1	0	0	0	9	129
3	32	32	33	0	9	7	24	0	0	4	0	0	0	0	26	167
4	14	33	11	0	8	5	21	0	0	1	0	0	0	0	11	104
5	15	28	5	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	11	69



ヒヤリハット報告書件数

年度	転倒	座転落込み	打ち付け挟み込み	衝突	誤嚥	誤飲(異食)	薬事故	溺水	やけど	利用者間トラブル	行方不明	交通事故	送迎事故	感染症	その他	合計
30	6	16	4	0	12	5	23	0	0	0	5	0	0	0	9	80
1	11	9	2	0	5	4	5	0	0	0	5	0	0	0	8	49
2	143	95	10	0	20	18	11	0	0	16	14	0	0	0	17	344
3	90	86	3	0	11	10	18	0	1	14	7	0	0	0	8	248
4	70	71	1	0	8	5	3	0	1	3	2	0	0	0	5	169
5	61	54	0	0	11	3	6	0	0	1	2	0	0	0	12	150



篠栗荘 稼働率一覧表

年度	入所稼働率	平均介護度	入所者数	退所者数	ショート稼働率	備考
平成25年	94.62%	3.7	11	11	99.55%	
平成26年	93.41%	3.77	17	16	97.02%	
平成27年	92.82%	3.83	15	14	57.71%	入所は介護度3以上の規定開始
平成28年	94.61%	3.87	12	11	75.44%	
平成29年	91.78%	4.06	15	15	75.44%	
平成30年	91.57%	4.17	19	21	88.52%	(近隣に類似施設増加) 110サービス科
令和元年	92.84%	4.02		15	71.17%	
令和2年	92.54%	4.05	9	11	71.17%	新型コロナ発生
令和3年	89.79%	4.05	11	11	70.47%	(市内に特養増設)
令和4年	88.33%	3.9	11	9	50.24%	施設でのクラスター発生
令和5年	91.30%	3.9	11	9	56.85%	施設でのクラスター発生

特別養護老人ホーム
篠栗荘

(介護老人福祉施設 介護保険事業所番号 4073900062)
 分野名 介護老人福祉施設
 施設長 柳 竜一

○ 居宅介護支援事業〔篠栗荘ケアプランセンター〕

(介護保険事業所番号4073900054)

(実務について)

分野名 居宅介護支援事業

主任ケアマネ 岩橋慈子

契約者 28名 令和 6年 3月末現在

令和5年度 新規利用者 16名

利用終了者 15名 (入所4名、入院7名、サービス中止1名)

包括支援センターへ移管1名、小規模多機能1名)

令和5年度の新規利用者の内訳は、地域包括からの依頼が5件、篠栗病院からの紹介が2名、他の居宅介護支援事業所の介護支援専門員退職による担当依頼が2名、新規利用者が直接相談で契約となったケースは7件であった。

新規のご契約者について、電話にて直接ご相談いただき契約となったケースが多かった。町内他居宅事業所の介護支援専門員の退職に伴う依頼が2件あり、3月以降も相談が増えており毎月受け入れている。介護予防者で篠栗荘のデイサービスやショートステイをご利用中で、地域包括支援センター担当であった方はほとんど、要介護認定が出た際、併設である篠栗荘ケアプランセンターの担当を希望される。篠栗荘デイサービス、ショートステイが各御利用者、ご家族に好評であるためであり、柔軟にかつ的確に対応されているため、社会的に問題を抱えた方や重度な方でも施設に入所することなくご本人やご家族が望む在宅生活を継続できている。

利用中止者については、本人やご家族が希望され篠栗荘に入所となった方や、病状が悪化し入院された方等である。ショートステイを利用され気に入られ、その後篠栗荘の入所を希望されている。入院され中止となった方の多くは末期がんで、デイサービス、ショートステイを利用しながら在宅介護をされたのち入院され、まもなく亡くなられている。

介護力不足やニーズの多様化、家族関係の複雑化などで、虐待等処遇困難ケースが増えている。新規の利用者の多くは、独居や高齢者夫婦世帯である。その上、子供が遠方にいることや、疎遠であることが多い。介護家族も多様化し介護サービスや、介護そのものの理解が乏しく、また経済的な問題を抱えているケースなどの対応の際、社会資源が少なく、地域包括ケアの構築がまだ不十分で、利用できるインフォーマルサービスがなく介護保険サービス外の問題であっても介護支援専門員が調整、支援を行わざるをえない状況で負担が大きくなっている。各サービスから栄養状態、服薬状態、健康状態等の問題を介護支援専門員に報告の義務があるが、問題解決のできる家族がいない場合は介護支援専門員が対応を行うことがある。介護支援専門員として利用者を介護保険外でも地域で生活できる様、調整し支えるという介護保険外の役割もあるため、介護保険外の手続き支援等も、本人、家族、行政から依頼され行うことがある。権利を主張する家族の過度な要求からの介護支援専門員や事業所スタッフに対するハラスメントも見られた。業務の範囲が明確でないため負担が増えており、全国的に介護支援専門員が減少している。

対応困難事例が増加しており本人、家族、サービス事業所、医療機関等と何度も調整し、モニタリング、アセスメントを行い担当者会議の開催や、ケアプランの作成を新規ケース同様の過程で行う必要がある事例が多い。その都度詳細な記録を行う必要があり不備があると減算の対象となる。法改正に伴うサービスの透明化、公平性を中心に利用者家族へ具体的な説明、同意、記録の追加が必要でケアプランの質も高いものが求められ、業務量が増大している。

要介護者、特に軽度者の増加が著しく、それに引き換え介護サービスの人的確保が困難になってきている。要介護者の地域での在宅生活を支えるため、今後も居宅介護支援の業務を継続していく必要がある。今後も適正な運営を行いながら利用者の自立支援を行っていく

(各種サービス利用者について)

デイサービス 11名 デイケア 2名 訪問介護名 3名 福祉用具貸与 9名

ショートステイ5名 訪問看護 5名 訪問入浴 1名 (月平均)

○ 通所介護事業(篠栗荘デイサービスセンター)

【年間総括】

令和5年度のデイ利用者の延人数は5533人、昨年は5230人であり、303名の増加でした。前年度と同じ21名の新規利用がありました。利用終了の方が同程度以上いました。新規利用者の傾向としては、要支援の利用者が過半数を占めており、厳しい状況に変わりありません。また、要介護者の施設入所、長期入院、感染予防に伴う休みも収入減収の一因に上げられます。最近の傾向としては、利用者と家族の関係性が希薄になりつつあると感じます。核家族化、老老介護、就労家族の増加、家族が遠方等により、緊急時に家族との連絡に時間を要することも増えてきました。今後は、伝達媒体について、メールでの伝達も必要になると思われます。収支に関しては、物価高騰等の影響により、支出に関して増加しています。必要経費が増す中で、いかに支出を抑えつつ、利用者満足度を増やしていくかが今後の課題と感じます。満足度と言う観点からは、「売り」=「魅力(事業所の強み)」である外出行事が感染予防の為、充分に行うことが出来なかった事が心残りです。外出行事は、とても喜ばれる為、近場からでも少しずつ増やしている所です。定員について、6年度より定員を30名から25名に変更しました。施設が淘汰される時代、ダウンサイジングを図りつつ、稼働率は確保するというスタイルで望む所存です。

【介護サービス】

食事	季節に応じた行事食の提供や手作りおやつを提供を行い、食べる楽しみ、喜びを感じて頂きました。利用者の中には食事を楽しみにされている方も多く、「温かい食事はいいね」「いつも美味しく頂いてます」等の声が聞かれています。栄養面、心理面を補うことにより、食事を摂るといふ喜びからくる笑顔を今後も引き出していけるように努めていきます。
入浴	身体の清潔保持と精神的な満足感が得られるように利用者の身体状況に応じ、一般浴、機械浴での入浴を行いました。また体調によっては、シャワー浴、足浴等も実施しました。利用者からは「家ではシャワーばかり。お風呂に入れるから休まずこよう」という声もありました。今後も入浴による自宅での入浴困難解消、家族の介護負担軽減に努めます。
排泄	一人一人にあった支援を実行しました。尿意がない方には、トイレへ定期誘導をすることで、トイレトレーニングになり、失禁が減少しています。また、車イスの方には、定期的な声かけにより、車イスへの長時間の座りっぱなしを防ぎ、トイレでの起立、移乗動作訓練になりました。必要に応じ、拭き残し、ズボン上げる介助を行いました。
レクリエーション	コロナ禍では制限も多く、室内での行事が中心でした。5類移行に伴い、カラオケの再開、外出行事の実施等、以前の日常を取り戻しています。外出に関しては、町内中心に周り、四季の変化を感じて頂いています。行事によっては、2種類のレクリエーションを準備して、利用者の方に選んで頂く形式も実施しました。
機能訓練	下肢筋力低下、転倒防止の観点から、起立訓練、足踏み等、下肢強化を図りました。また、テーブル拭きや洗濯物たたみ等、自宅での延長線上の生活リハビリは座席で行うことが出来る為、多くの方に参加頂きました。脳トレに関しては、塗り絵、パズル、計算等、一人一人に合ったプログラムを提供しています。
健康チェック	迎え時の検温チェック、朝の様子観察等に努めました。必要があれば、家族から夜間帯の睡眠状況、食事量の確認を実施しました。また、新型コロナウイルス等の感染症予防の為、環境整備や衛生管理、健康チェックを継続して行いました。感染者が利用者及び家族に出ましたが、幸いクラスターには至りませんでした。今後も感染状況を注視し適切な対応を行います。
送迎	運転前のアルコールチェック、体調チェックを行いました。また、安全運転、迷惑駐車防止に努め、交通事故なく送迎を行うことが出来ました。

【地域との交流】

①地域交流 ②ボランティア ③広報	①オアシスで行われるイベントに参加し、町民との関わりをもちました。また、近畿大学生による篠栗88カ所札所巡りのネット上映(学生からの支援協力)があり、寺社巡りを画像体感されています。 ②コロナ禍で受け入れを中止していたボランティアの受け入れを再開しています。踊りや歌、入浴後の整髪等、幅広く参加頂きました。 ③外部からの問い合わせがあった際、事業所概要、1日の流れ等の説明を行いました。
-------------------------	---

【リスクマネジメント】

①ヒヤリハット・事故報告 ②避難訓練	①5年度は、事故報告13件、ヒヤリハット5件、発生しています。重傷(転倒による骨折等)の事故はありませんでしたが、食事時のむせ込み、入浴中の湯あたり、転倒等の事故報告があり、改めて、見守りや介助の徹底が必要であると感じました。ヒヤリハットは、負傷事故の危険があると判断される事案があり、リスクマネジメントの観点から職員間で情報共有を図っています。 ②館内の消防訓練参加、消火器等の確認を定期的実施。
-----------------------	--

【感染対策】

感染予防の継続	コロナ5類移行も各種感染の危険性はあります。現在、利用者、職員は継続して、マスク着用を徹底しています。契約時に説明して御理解を得ています。また、うがい、手洗いも継続して実施しています。換気を重視するとともに、座席配置に関して、対面を避け、横並びの配置にするなどの感染防止策を講じています。
---------	--

【高齢者虐待防止】

人間尊厳	隣人愛の人間観に基づいて、利用者の人権に配慮した声掛け、対応を心がけています。不適切と思われるケアを避け、介護される側の立場になってケアを実施しています。職員の介護スキルの向上、接遇意識を高めることを主眼とすることにより、デイサービスにおける不適切な虐待事例は見られていません。今後も利用者一人一人との信頼関係作りを構築していき、安心出来る施設作りを行っていきます。
------	---

【個人情報保護】

プライバシー保護の徹底	「利用者基本情報」「ケアプラン」「アセスメント」「介護記録」等、介護現場で使用する記録等は、個人情報にあたる為、新規利用時には必ず、個人情報保護について、利用者及び家族に説明して了承を得ています。また、写真撮影においても事前に撮影の確認を行うようにしています。職員に関しても、日頃から個人情報保護の徹底を図るよう周知しています。
-------------	--

E. 安全運転

事故ゼロの継続	利用者の送迎においては、体調確認やシートベルトの着用を徹底し、乗降介助等、一人一人の安全確保に努め、安心・安全な対応が出来るようしました。時間にゆとりをもった送迎を心がけ、利用者及び職員も心にゆとりをもつよう心がけました。また、迎え時間、経路等を把握し、利用者にとって負担のないよう実施しました。
---------	--

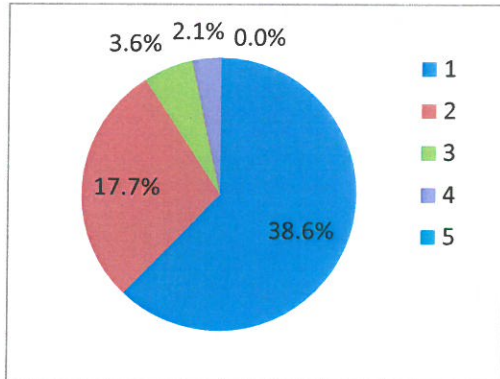
① 令和5年度新規利用者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総合事業人数	2	1	0	2	2	2	0	0	1	0	2	1	13人
介護人数	1	0	1	0	0	0	1	1	2	0	0	2	8人
前年度人数	0	0	3	2	0	3	5	1	0	0	4	3	21人

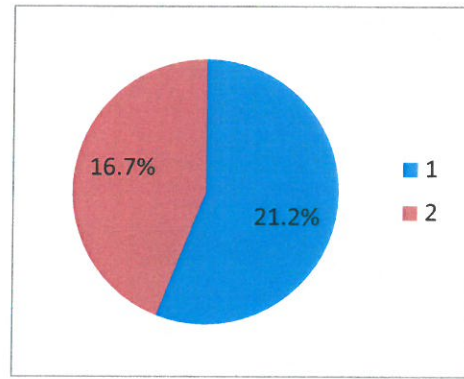
② 年間介護度別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
要介護1	210	233	210	205	182	177	172	162	157	135	143	150	2,136人	38.6%
要介護2	57	62	77	84	84	93	95	90	102	76	77	85	982人	17.7%
要介護3	0	0	0	0	15	26	25	23	26	40	23	23	201人	3.6%
要介護4	14	15	13	17	20	19	18	0	0	0	0	0	116人	2.1%
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	人	0.0%
介護合計	281人	310人	300人	306人	301人	315人	310人	275人	285人	251人	243人	258人	3,435人	62.1%
要支援1	97	113	100	90	94	101	95	101	100	87	97	99	1,174人	21.2%
要支援2	76	70	88	86	90	85	64	62	80	72	70	81	924人	16.7%
総合合計	173人	183人	188人	176人	184人	186人	159人	163人	180人	159人	167人	180人	2,098人	37.9%
総合計	454	493	488	482	485	501	469	438	465	410	410	438	5,533人	100.0%
実施日数	25日	27日	26日	26日	27日	26日	26日	26日	26日	24日	25日	26日	26日	
1日平均	18.2人	18.3人	18.8人	18.5人	18.人	19.3人	18.人	16.8人	17.9人	17.1人	16.4人	16.8人	16.9人	
稼働率	60.5%	60.9%	62.6%	61.8%	59.9%	64.2%	60.1%	56.2%	59.6%	56.9%	54.7%	56.2%	56.2%	
前年度	466	439	452	445	374	398	495	464	414	381	431	471	5,230人	

要介護



要支援



③ 月別登録利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	割合
介護1	20	19	16	17	15	16	15	15	14	12	11	13	183人	34.1%
介護2	5	6	6	7	7	9	8	7	8	7	8	8	86人	16.0%
介護3	0	0	0	0	1	1	1	1	1	2	1	1	9人	1.7%
介護4	1	1	1	1	2	1	1	0	0	0	0	0	8人	1.5%
介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	人	0.0%
要支援1	13	14	12	11	11	11	11	11	12	12	12	11	141人	26.3%
要支援2	9	8	10	10	10	10	8	7	9	9	10	10	110人	20.5%
合計	48	48	45	46	46	48	44	41	44	42	42	43	537人	100.0%
前年度	41	40	45	43	40	41	47	47	47	44	43	44	522人	

